

# 株式会社ネクスウェイ様

## クラウド利用の可視化と制御でセキュリティ対策を強化 制約の少ない運用ルールに基づく 安全かつ自由度の高いクラウド活用を実現



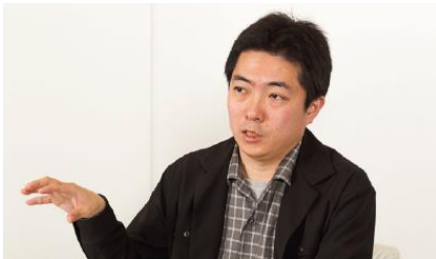
### 株式会社ネクスウェイ

<https://www.nexway.co.jp/>

#### 会社概要

設立： 2004年10月  
住所： 東京都港区虎ノ門4-3-13  
ヒューリック神谷町ビル  
事業概要： 情報通信提供サービス事業

「リモートワークを推進している  
当社のニーズにマッチした使い方が  
できる点を評価しました」



経営企画本部 事業統括室  
グループマネジャー

森田 記和 氏

「KCCSは同じ目線で  
一緒に最適な利用法を悩み、  
考えてくれました。  
非常に心強い存在です」



経営企画本部 事業統括室

伊奈 隆昭 氏

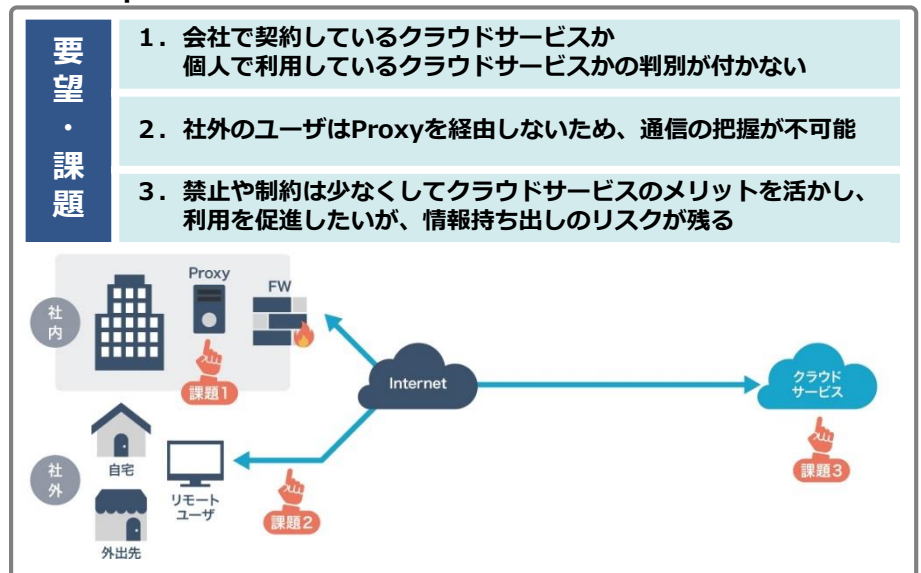
時代の変化に応じて最適化したFAXサービス、メール配信システム、帳票ソリューションなどの提供を通じて、企業のビジネスコミュニケーションや営業・マーケティングを支援する株式会社ネクスウェイ（以下ネクスウェイ）。同社では極力オンプレミスを持たないというIT戦略に基づき、メールやスケジュール管理、ドキュメントの作成・共有にG Suiteなどのクラウドサービスを積極的に活用している。

こうした業務に欠かせないクラウドサービス活用におけるセキュリティ強化を目指し、同社はクラウドセキュリティ/CASBサービス「Netskope」を導入した。

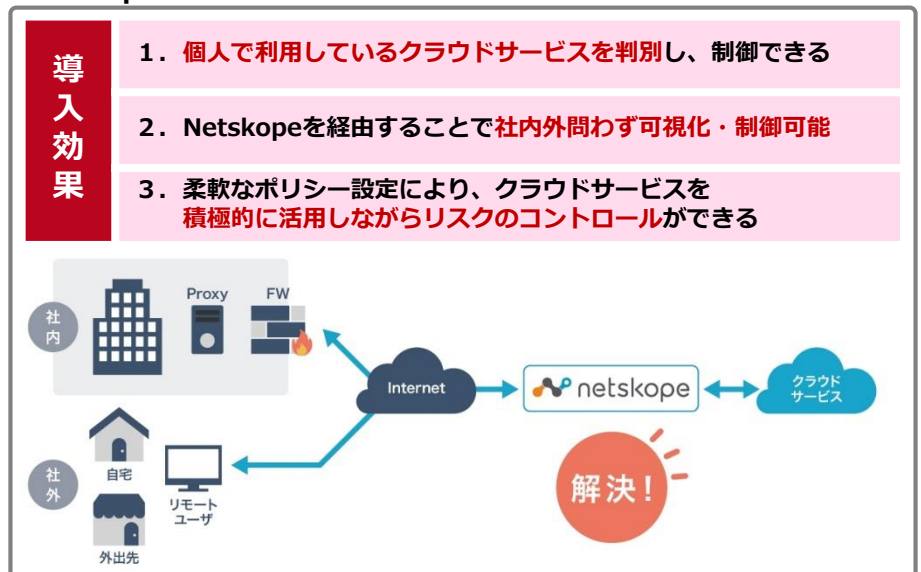
これにより、多様なクラウドサービスの利用状況を可視化・制御し、潜在的なリスクを即座に把握できるようになった。利用を制限しない現場のクラウド活用により、さらなる業務の生産性向上が期待できるという。

京セラコミュニケーションシステム（以下KCCS）が、この導入と運用支援を担っている。

### Netskope導入前



### Netskope導入後



背景  
課題クラウドの利用状況を  
可視化する仕組みが必要

「リスク対策のために、会社承認のサービス以外は利用を禁止するのも1つの方法ですが、それでは従業員の仕事の幅を狭めてしまいます。大切なことは、リスクをきちんとコントロールすることです。そうすれば禁止や制約の少ないクラウドサービスの利用が可能になります」。こう話すのは、同社でクラウドサービス利用の運用ルールづくりに携わった、森田氏だ。

社員のクラウドサービス利用にはできるだけ制限を設けず、情報の持ち出しに制限をかける。これが同社の目指す運用ルールだが、従来の管理方法ではそれが困難であることが分かった。

森田氏は当時の状況を次のように振り返る。「例えば、メール基盤として利用するGmailは、ゲートウェイ部分でログ情報を収集していたものの、ドメイン単位のログ情報でした。そのため個人でGmailを利用している、どの通信が会社のもので、どれが個人アカウントの通信なのか見分けがつかない。故意あるいは悪意あるアクセスにより、そこから会社の情報が窃取されるリスクがゼロとは言い切れなかったのです」。

選定の  
ポイントクラウド利用状況の可視化・制御の  
仕組みと充実したサポート力を評価

Netskopeは、約30,000種類のクラウドサービスを判別し、独自のリスク評価基準に基づきスコアリングしている。このため、もし業務利用の認められていない未認可クラウドサービスの利用が検出された場合でも、スコアリングに基づき「可視化されたクラウドサービスが安全なものか」を判断したうえで適切な対策をとることができる。また危険なクラウドサービスの利用を抑止するためのポリシーを設定できる。

環境や要件に応じて柔軟な導入構成を取ることができるのがNetskopeの大きな特長だが、最大の強みはエージェントタイプにある。森田氏は次のように述べる。「特にエージェントタイプは社有デバイスにエージェントをインストールするだけで利用を開始できるうえ、社内プロキシを通過しないモバイルデバイスの利用状況まで把握できます。リモートワークを推進している当社のニーズにマッチした使い方ができる点を評価しました」。

「Netskopeの検証活動の中で培った多くの技術と知見を用い、単にサービスを提供するだけでなく、利用の最適化に向け、充実したサポートを展開できるのがKCCSの大きな強みです」とKCCSの前田は語る。実際に、KCCSが蓄積した知見・ノウハウに基づくサポート対応力は大きな選定ポイントになったという。「ネットワーク全体の可視化が、私たちの求めていることでした。KCCSはそれを深く理解し、同じ目線で一緒に最適な利用法を悩み、考えてくれました。非常に心強い存在です」とNetskopeの社内運用を担当するネクスウェイの伊奈氏は評価する。

導入効果  
展望リスクを恐れない、  
積極的なクラウド活用が加速

こうしてネクスウェイは2018年9月より、Netskopeの全社利用を開始した。利用実態に基づき運用ルールを検討した結果、業務システムなど全社標準のクラウドサービスは情報システム部門が定義したルールに基づいて運用するが、それ以外のクラウドはアップロードのみ禁止し、現場判断で自由に使えるようにしている。

「Netskopeの導入による最大のメリットは『今まで見えなかったことが見えるようになったこと』です。全社員のクラウドアクセス履歴のほか、社員ごとのファイルのアップロード/ダウンロード履歴などクラウド利用状況を把握できます」と伊奈氏は話す。

「利用状況を見る限り、現在までに情報漏洩につながるようなリスクのある使われ方はしていませんし、従業員から不満の声も上がっていません」と話す森田氏。従業員の自由なクラウド利用を許容しつつ、その利用状況を見ながら、より最適な運用ルールづくりを進めていく。

KCCSもネクスウェイのこの取り組みを強力に支援していく。「これからクラウドサービス市場はさらに発展することが見込まれています。今後も他社様の活用方法や最新情報の提供などを通じて、ネクスウェイ様が目指す、クラウドサービスを活用したリモートワークにおける安全性を支援していきたいと考えています。また可視化した情報の分析による、より最適な運用やポリシー設計と運用サポートにも貢献していきます」とKCCSの橋本は述べる。

Netskopeの活用により、安全かつ自由度の高いクラウド利用を実現したネクスウェイ。このメリットを活かし、今後も同社はクラウドの積極利用を推進し、従業員にとってより働きやすい環境を提供することで、さらなる成長を目指す。



(左から)

ネクスウェイ 経営企画本部 事業統括室 伊奈 隆昭 氏  
同 経営企画本部 事業統括室 グループマネジャー 森田 記和 氏  
KCCS ソリューション営業統括部 東日本セキュリティ営業課 橋本 敦司 同 セキュリティ事業部 インテグレーション課 前田 彦彦

本事例の詳細はコチラ

<https://www.kccs.co.jp/secureowl/case/case10010.html>



京セラ コミュニケーションシステム株式会社

随時セミナー開催！

詳しくは <https://www.kccs.co.jp/secureowl/events/index.html>

KCCSカスタマーサポートセンター

フリーコール 0120-911-901

携帯電話・IP電話など 050-2018-1827

受付時間 平日9:00~17:00

(17:00以降のお問い合わせは自動応答になります。)

KCCSホームページ <https://www.kccs.co.jp/>

E-mail: [kccs-support@kccs.co.jp](mailto:kccs-support@kccs.co.jp)